

東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

令和3年度事業報告書



令和4年5月

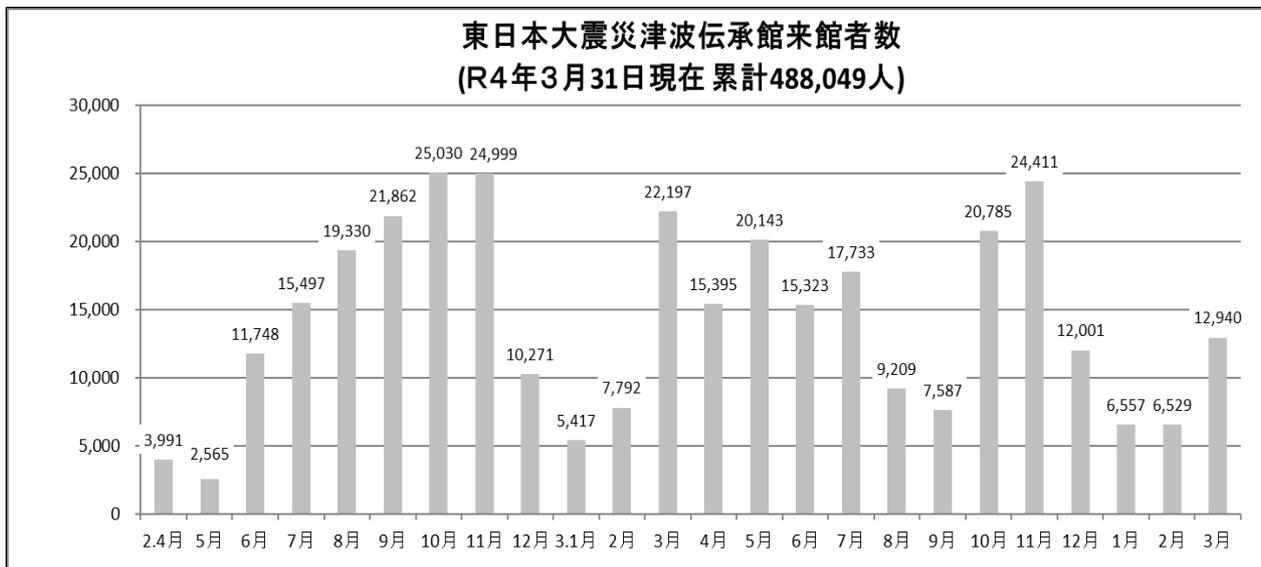
目 次

項 目	頁
来館者の状況	
1 来館者数の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	4
事業報告	
I 展示・解説事業	
1 常設展示の維持・更新	5
2 企画展示の開催	5
3 解説員の資質向上	7
4 安全な見学環境の確保	8
II 教育・普及事業	
1 教育旅行・校外学習の誘致促進	9
2 震災学習プログラムの開発	9
3 多様な来館者の誘致促進	10
4 講座・セミナーの開催	10
5 オンライン展示解説の試験実施	11
III 広報宣伝事業	
1 情報発信	12
2 震災伝承施設の広域連携推進（3.11 伝承ロードとの連携）	12
IV 交流・連携の推進	
1 海外津波博物館との連携	13
2 大学との連携	13
<参考> 東日本大震災津波伝承館概要	14

1 来館者の状況

1 来館者の状況

単位：人



令和3年度 月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	15,395	20,143	15,323	17,733	9,209	7,587	20,785	24,411	12,001	6,557	6,529	12,940	168,613
開館日数(B)	30	31	30	31	12	13	31	30	28	27	26	31	320
平均来館者数(A/B)	513	650	511	572	767	584	670	814	429	243	251	417	527

※1) 令和3年度の最多来館者数：2,605人(令和3年5月3日(月・祝))

2) 令和3年8月13日(金)～9月17日(金)は「岩手緊急事態宣言」の発令に伴い休館

3) 令和4年1月16日(日)トンガ沖で発生した海底火山の大規模噴火に伴う津波警報の発表により休館

4) 令和4年2月8日(火)及び9日(水)は展示装置等保守点検に伴い休館

令和2年度 月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	3,991	2,565	11,748	15,497	19,330	21,862	25,030	24,999	10,271	5,417	7,792	22,197	170,699
開館日数(B)	11	7	30	31	31	30	31	30	28	28	26	31	314
平均来館者数(A/B)	363	366	392	500	624	729	807	833	367	193	300	716	544

※1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年4月12日から5月24日まで休館。

2) 令和3年2月8日、9日は展示装置保守点検のため臨時休館。

3) 最多入館者数：2,067人(令和2年9月21日(月・祝))

令和3年度 平日、土日祝日別来館者数（令和4年3月31日現在）

単位：人、日

	平日			土日・祝日			計	
	R3年度	R2年度	R2年度 年間累計	R3年度	R2年度	R2年度 年間累計	R3年度 実績(計)	R2年度 実績(計)
	(4月～3月末日時点)			(4月～3月末日時点)				
来館者数(A)	91,738	96,005	96,914	76,875	74,694	73,785	168,613	170,699
開館日数(B)	214	215	216	106	99	98	320	314
平均来館者数(A/B)	429	447	449	725	754	753	527	544

2 区分別団体予約の状況

令和3年度 区分別団体予約件数（令和4年3月31日現在）

単位：件、人

		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	122	5	127	5,021	202	5,223
	中学校	73	46	119	3,973	3,269	7,242
	高校	30	34	64	1,431	2,006	3,437
	大学	6	14	20	138	390	528
	小計	231	99	330	10,563	5,867	16,430
学校以外	観光ツアー	28	176	204	656	3,372	4,028
	海外（観光含む。）	0	2	2	0	31	31
	地域の団体	65	16	81	1,318	286	1,604
	取材・報道	15	16	31	33	75	108
	国（省庁、議員）	6	11	17	48	87	135
	自治体	12	19	31	186	143	329
	議会	0	0	0	0	0	0
	議会（県外）	0	4	4	0	48	48
	県（部局、県議会）	15	0	15	121	0	121
	その他	42	66	108	445	843	1,288
	小計	183	310	493	2,807	4,885	7,692
合計		414	409	823	13,370	10,752	24,122

※ 令和4年3月31日までの予約件数（キャンセルを除く）

区分別にみると、学校では、県内は小学校（122件）による利用が突出して多いが、県外は小学校（5件）が最も少なく、中学校（46件）、高校（34件）による利用が多い。学校以外では、県内は地域の団体（65件）による利用が最も多く、県外は観光ツアー（176件）による利用が最も多い。
 なお、その他には、法人の研修等利用（41件）、任意の団体（18件）、専門学校（9件）等が含まれる。

3 都道府県別団体予約の状況

令和3年度 都道府県別団体予約件数（令和4年3月31日現在）

単位：件、人

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数
北海道	15	567	石川県	1	4	岡山県	1	32
青森県	15	766	福井県	0	0	広島県	1	3
岩手県	414	13,370	山梨県	0	0	山口県	0	0
宮城県	52	1,380	長野県	5	366	徳島県	0	0
秋田県	5	168	岐阜県	1	16	香川県	0	0
山形県	12	855	静岡県	6	199	愛媛県	1	5
福島県	7	344	愛知県	21	270	高知県	0	0
茨城県	17	586	三重県	0	0	福岡県	3	36
栃木県	4	354	滋賀県	1	10	佐賀県	1	9
群馬県	1	20	京都府	3	126	長崎県	0	0
埼玉県	10	491	大阪府	17	252	熊本県	3	36
千葉県	0	0	兵庫県	7	106	大分県	0	0
東京都	171	3,095	奈良県	1	6	宮崎県	0	0
神奈川県	19	351	和歌山県	0	0	鹿児島県	1	51
新潟県	3	196	鳥取県	0	0	沖縄県	1	20
富山県	0	0	島根県	0	0	海外	3	32
計							823	24,122

都道府県別では岩手県(414件)が最も多く、次いで東京都(171件)、宮城県(52件)の順となっている。

令和3年度 都道府県・区分別団体予約人数（令和4年3月31日現在）

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	124	岩手県	122	岩手県	73	岩手県	30
2	岩手県	28	山形県	3	北海道	9	埼玉県	5
3	大阪府	16	青森県	2	宮城県	7	青森県	4
							宮城県	4
							山形県	4
4	宮城県	12	—	—	青森県	6	福島県	3
5	その他	24	—	—	その他	24	その他	14
	計	204	計	127	計	119	計	64

区分別にみると、観光ツアーでは東京都(124件)が最も多く、学校ではいずれも岩手県が多い。

2 事業報告

I 展示・解説事業

1 常設展示の維持・更新

随時、常設展示の修正・補修を実施した。

また、高田松原津波復興祈念公園の供用開始に対応し、園内の案内表示及び津波避難経路図を更新した。(9月)

【更新したエントランスの公園案内図及び津波避難経路図】



2 企画展示の開催

当館主催及び関係団体との共催による企画展示を次のとおり実施した。

	主	共	展示内容・期間等
1		①	<p>写真展「ふるさと気仙に生きて」 (4/24～5/9、(株)東海新報社との共催)</p> <p>被災地であるだけではない、気仙地域の美しい風景の写真展示を通じ、復興へと歩いていくまちと自然、人々の姿を発信。</p>
2		①	<p>第1回企画展示 東日本大震災津波と三陸ジオパーク (6/11～7/11)</p> <p>三陸ジオパークの視点から、三陸の大地と海の成り立ちや魅力、県内各地の震災遺構を解説し、震災津波への理解と三陸への訪問を促す展示を実施。</p> <p>また、期間中に以下の関連事業を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドと巡る三陸ジオパーク ・親子 de じっけん教室



3	②	<p>写真展「東日本大震災津波と海上保安庁～経験から伝承へ～」 (8/7～12、11/19～12/5、釜石海上保安部との共催)</p> <p>震災津波当時の海上保安庁による行方不明者の捜索や海上交通の復旧活動等の写真展示により、自然災害への備えの意識を新たにする機会として開催。</p> 
4	②	<p>第2回企画展示 三大震災の事実と教訓 (9/25～10/24)</p> <p>関東大震災、阪神・淡路大震災との比較を通じて東日本大震災津波の実態を浮き彫りにするとともに、その事実と教訓を踏まえ、「自分でできる」「地域で協力し合う」災害への備えを考え、実践を促す展示を実施。(監修協力:東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)</p> 
5	③	<p>東日本大震災津波パネル展「東日本大震災における航路啓開」 (10/29～11/12、(一社)日本埋立浚渫協会東北支部との共催)</p> <p>東日本大震災津波により閉塞した三陸沿岸地域の港湾の航路啓開活動の写真パネルを通して、震災津波の事実を思い起こし、その教訓を活かした津波防災を後世に伝える機会として開催。</p> 
6	③	<p>第3回企画展示 いわたの復興教育 (12/11～1/9)</p> <p>「いわたの復興教育」の意義と、小・中・高校・特別支援学校で行われている特色ある実践例を紹介する展示を実施。 また、期間中に以下の関連事業を開催。 ・大槌高校復興研究会「防災紙芝居」 ・いわたの復興教育上映会</p> 
7	④	<p>第4回企画展示 いわて三陸沿岸のいま 2021 (3/15～4/17)</p> <p>2021年(令和3年)、本県沿岸地域の復興に向けて生まれた動きを紹介し、東日本大震災津波から11年を経たいわて三陸の現状を発信するとともに、今後の復興を考える機会とする展示を実施。</p> 

このほか、市町村等の要請に対応して、上記の企画展示で制作したポスター等の貸出を実施し、展示内容の広域かつ継続的な発信・活用を図った。

催事名・相手方	貸し出した展示制作物	貸出期間
野田村復興展示室 企画展示	第3回企画展示ポスター	令和4年3月9日～13日
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館ゴールデンウィークイベント（当館共催）※	第4回企画展示ポスター	同 4月29日～5月8日
今から始める防災・減災展（一般社団法人おはなしころりん） ※	第2回企画展示ポスター	同 6月3日～7月1日

※令和3年度中のほか、令和4年度の現時点での貸出実績を参考掲出。

3 解説員の資質向上

解説員の資質及び解説水準の向上を図るため、以下の研修を実施した。

<p>(1) 高田松原津波復興祈念公園パークガイド見学研修（5/24～28、4行程） 令和3年度から運用が始まったパークガイドの案内により、震災遺構タピック45・気仙中学校を見学し、高田松原津波復興祈念公園及び園内の震災遺構について理解を深めた。</p>	
<p>(2) 沿岸市町村伝達研修（9/6～27、臨時休館期間中に実施） 沿岸12市町村及び遠野市、住田町について、基本情報（人口、観光、被害の概要）、当館の関連展示、震災伝承の取組等の調査・発表を行い、広く三陸沿岸に対する理解を深め、当館のゲートウェイ機能の向上を図った。</p>	
<p>(3) 東日本大震災・原子力災害伝承館の視察（1/5～14、4行程） 福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館を視察し、県外における震災伝承について理解を深めた。</p>	
<p>(4) インバウンド対応研修（1/11） 大船渡市、住田町のALT（外国語指導助手）の協力を得て、英語担当解説員による展示解説の水準向上を図った。</p>	
<p>(5) 解説実務研修（2/8） 東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授を講師に、大船渡市防災学習館の見学、講義「SDGsと東日本大震災」、ワークショップ等を内容とする研修を行い、解説スキルの向上を図った。</p>	
<p>(6) 接遇・障がい者対応研修（2/9） 挨拶、身だしなみ等のマナーとあわせ、来館者が聞きやすい話し方を実践する研修を実施。 また、聴覚障がいの理解や筆談、手話の実践等の研修を行い、多様な来館者への対応スキルの向上を図った。</p>	
<p>(7) 新採用解説員研修（8月～翌3月） 令和3年8月に採用された菊池解説員に対し、職員及び他の解説員による説明や自学等を通じ、常設展示への理解を深める研修を実施した。</p>	

4 安全な見学環境の確保

(1) 災害発生時における来館者及び職員の安全の確保

各種訓練を次のとおり実施した。

<p>避難行動フィールドワークの実施 実施日：令和3年6月21日 参加機関 道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、陸前高田市、大船渡土木センター 計16名 内 容 公園内の4つの避難経路を徒歩で誘導用の看板を確かめながら課題を探る。</p>	
<p>さすまた操作訓練の実施 実施日：令和3年8月6日 参加機関：東日本大震災津波伝承館 内 容 大船渡警察署署員を招き、不審者と対峙する場合の対処について、“さすまた”を使用して講習を受けた。</p>	
<p>消火・避難訓練の実施 実施日：令和3年9月16日 参加機関 道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館 計28名 内 容 高田松原国営追悼・祈念施設管理棟の消火・避難訓練</p>	
<p>合同地震・津波避難訓練の実施 実施日：令和3年11月5日 参加機関 道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、陸前高田市防災局防災課、盛岡市立中野小学校、花巻市立西南中学校、3.11みらいサポート、来場者 内 容 地震・津波を想定し、来場者を一時待機場所へ避難誘導するとともに、指定避難所の気仙小学校まで徒歩で避難誘導する。 参加者数：約400名(一時待機場所への避難誘導訓練)</p>	

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止

三密（密閉・密接・密集）環境の排除、座席等の消毒、マスクの着用、検温及び手指の洗浄・消毒を極力実施するなど、館運営における基本的な感染拡大防止策の徹底を図っている。

新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備による常時換気、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、シアター席等の間隔確保等

II 教育・普及事業

1 教育旅行・校外学習の誘致促進

(1) 県内小中学校の訪問

いわての復興教育推進校を中心に、復興教育の実績や予定、当館の活用見込や評価、課題等を聞き取り、展示・解説の改善に反映するとともに、来館促進を図った。（感染症拡大防止の観点から訪問回数を縮小）

【訪問実績】

単位：校

	小学校	中学校	高等学校	支援学校	計
内 陸	6	3	1		10
沿 岸	2	2	1	2	7
計	8	5	2	2	17

(2) 教員現地研修会の実施（8/5・6）

修学旅行や校外学習における伝承館の利用促進を図るため、県内の教員（小・中・高・特別支援学校）向けに現地研修会を開催した。

内容：当館及び高田松原津波復興祈念公園を解説見学。

（同内容を2日間実施）

参加者数：31名（8/5：19名、8/6：12名）



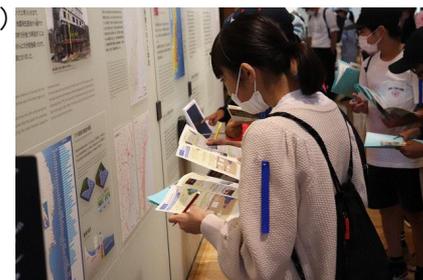
(3) 復興教育研修会での説明

盛岡教育事務所が開催した研修会において、当館による学習プログラムについて説明し、校外学習等での利用を促進した。（12/1、小学校33校・中学校13校の担当教員が出席）

2 震災学習プログラムの開発（校種等に対応した教材の作成と活用）

予習・復習に対応した震災学習プログラム教材として「震災津波伝承ノート」（中高校生用）、「震災津波学習ノート」（小学生用）を作成した。

震災津波の経験、記憶がない児童にも理解が深まるよう、校外学習・教育旅行のために来館する生徒への配付を中心に活用を図っている。



	震災津波伝承ノート（中高校生用）	震災津波学習ノート（小学生用）
表紙		
配布実績	185校 11,907部 (R3.4～)	87校 3,320部 (R3.6～)
アンケート結果	<p>①活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行のまとめに使用。新聞づくりのとてもよい資料となった。(学習) ・事前にどのような展示があるのか確認させた。(伝承) ・帰校後のまとめの時間に活用した。見学内容を振り返ることができ、自由記載で生徒一人一人が感じたこと、考えたことを知ることができた。(伝承) <p>②感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の全体像を知る上で大変役立った。(伝承) ・自分が今できることまで考えさせられるノートでとても役立った。(伝承) ・次回の見学の際は事前にいただき、事前学習に使用したい。(学習・伝承) 	

3 多様な来館者の誘致促進

高田松原津波復興祈念公園パークガイドと連携して来館者を案内できるよう、パークガイド運営事務局（陸前高田観光物産協会・マルゴト陸前高田）と定期的な情報共有を図った。

4 講座・セミナーの開催

当館見学団体を対象とした学習プログラム及びIの2「企画展示」の関連事業として実施した。（会場はいずれもセミナールーム及び高田松原津波復興祈念公園内）

<p>(1) 避難所運営ゲーム（HUG）の指導・実演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県立野外活動センター職員（5/26） 6人 ・岩泉町立小川中学校（6/2） 10人 ・一関市立川崎小学校（10/1） 21人 	
<p>(2) ガイドと巡る三陸ジオパーク（6/13、14人参加）</p> <p>三陸ジオパーク推進協議会の協力を得て、同協会認定ガイドによる震災遺構の紹介（普代水門・たろう観光ホテルなど）、高田松原津波復興祈念公園ガイドツアーを実施した。（第1回企画展示の関連事業）</p>	

<p>(3) 親子 de じっけん教室 (6/13～計 10 回、40 人参加) リアス海岸の成り立ち、地震・津波の発生メカニズムについての理解を促す装置実験を行った。(第 1 回企画展示の関連事業)</p>	
<p>(4) 大槌高校復興研究会「防災紙芝居」 (12/19 に 2 回、20 人参加) 大槌高校復興研究会の協力を得て、同会が制作した以下の演目の紙芝居を実演した。(第 3 回企画展示の関連事業) ①「あなたなら こんなとき どうする？」(クイズ) ②「記憶」 ③「伝えたいこと～あの日、私は小学 2 年生だった～」</p>	
<p>(5) いわたの復興教育上映会 (12/24～27) 県内学校の協力を得て以下の映像を放映した。(第 3 回企画展示の関連事業) ①「感謝のメッセージ」(宮古地区校長会事務局) ②「ありがとうの手紙 Thank You From Kamaishi」(釜石市教育委員会) ③創作太鼓演奏(野田中学校) ④大槌高校「防災紙芝居」(大槌高校復興研究会)</p>	

5 オンライン展示解説の試験実施

コロナ禍における新たな震災伝承スタイルを模索するため、各種団体と連携してオンラインでの展示解説に試験的に実施。

いずれもコロナ禍における新たな取組としてテレビ、新聞等で取り上げられ、広報宣伝の面でも高い効果を得ることができた。

	開催時期	相手方(人数)	摘要
①	R3. 7. 24	岩手大学 (30)	教育学部オンライン講義「いわての復興教育」
②	R3. 11. 20	九州産業大学 (3)	(一社) トナリノによる誘致
③	R3. 11. 26	田辺三菱製薬(株) (200)	(一社) トナリノによる誘致
④	R3. 11. 30	国際基督教大学 (12)	(一社) マルゴト陸前高田による誘致
⑤	R3. 12. 9	名古屋市立白水小学校 (38)	名古屋市、(株)東海新報社との共催
⑥	R4. 2. 14	岩手県立葛巻高等学校 (20)	ローカル 5 G 等による地域課題解決モデル構築推進事業(県ふるさと振興部)による
⑦	R4. 3. 8	兼松(株) (4)	(一社) トナリノによる誘致
⑧	R4. 3. 10	富士通(株)・サントリーHD(株) (4) 東急不動産(株)・(株)デンソー (9)	(一社) トナリノによる誘致

Ⅲ 広報宣伝事業

1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ及び必要に応じ県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図った。(14回)

(2) ホームページ・SNS を活用した情報発信

当館公式ホームページの充実とともに、当館周辺の日々の動向についてインスタグラム・ツイッター等を活用して積極的に発信している。

・ ツイッター、インスタ、フェイスブックのフォロワー数（令和4年3月31日現在）

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	3,600	2,490
Instagram	460	1,260
Facebook	250	960

(3) 都営地下鉄の中吊り広告の掲出

令和元年・2年度同様、東京都交通局の復興支援を活用し、都営地下鉄全線全車両への中吊り広告を掲出した。令和3年度は、閑散期の誘客を目的として1月中旬の掲出とした。

※ 実施時期：令和4年1月12日(水)～1月25日(火)



2 震災伝承施設の広域連携推進（3.11 伝承ロードとの連携）

- ・ エントランスに3.11 伝承ロードマップを展示しているほか、3.11 伝承ロード推進機構が発行するパンフレットを配架している。
- ・ 機構主催のツアー等の来館状況は以下のとおり。

①	7月16日	全日本建築技術協会会員（44名）
②	10月18日	東京に本社がある仙台支社長を会員とする団体（13名）
③	11月25日	日本建設業連合会（12名）
④	12月4日	東京に本社がある仙台支社長を会員とする団体（5名）
⑤	12月9日	インフラ語り部現地研修会（17名）
⑥	12月15日	一般社団法人沖縄経営者協会（20名）
⑦	12月16日	伝承ロードバスの旅（メディア等10名）
⑧	2月4日	伝承ロードバスツアー（9名）
⑨	2月7日	伝承ロードバスツアー（7名）
⑩	2月14日	伝承ロードバスツアー（6名）
⑪	同	台湾・欧米対象FAMツアー（5名）
⑫	2月24日	伝承ロードバスツアー（14名）

IV 交流・連携の推進

1 海外津波博物館との連携

- (1) 令和3年度に実施を予定していた「三陸 TSUNAMI 会議(仮称)」は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、再延期(実施時期未定)することとなった。
- (2) インドネシア共和国バンダ・アチェ州で開催されたオンラインイベントへの参加
 - ・日時 令和3年12月21日(火) 10:30～
 - ・主催 バンダ・アチェ州の津波アーカイブセンター
 - ・パネルセッションでの説明内容
東日本大震災津波の事実と教訓の発信、伝承館の取組概要、国際的な連携の重要性
 - ・対応者 藤澤副館長兼総務課長
(東北大学災害科学国際研究所参加者：柴山准教授、ボレー准教授)

2 大学との連携

当館の運営等に関し随時、連携・協力をいただくほか、企画展示の開催や館内講座等の実施に際して必要に応じて指導・助言を受けた。

- ・伝承館の展示全般についての指導・助言(岩手大学理工学部南教授)
- ・企画展示の監修、館内展示の指導・助言(東北大学災害科学国際研究所柴山准教授)
- ・デジタルアーカイブ学会第6回研究大会(会長：東北大学災害科学国際研究所長)において、伝承館の事例報告を実施(令和3年10月15日)
- ・岩手大学学生の見学受入(理工学部及び教育学部)

<参考> 東日本大震災津波伝承館概要

1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

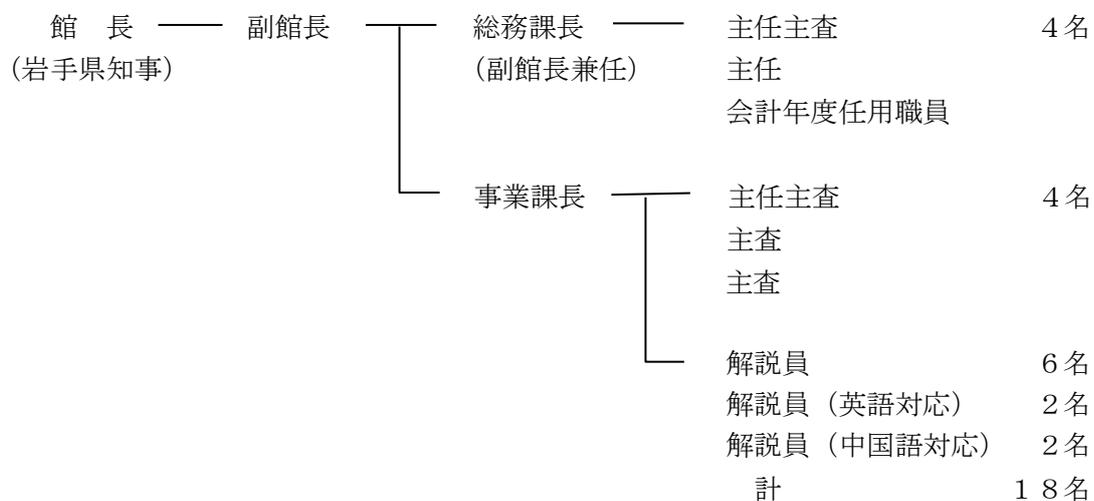
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m ² のうち展示面積 1,155 m ²
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

5 組織体制（令和4年4月1日現在）



令和4年5月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて^{つなみ}TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地

（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>